

育成幼稚園 10月園だより

大福のあんこ

園長 高地 敬(こうち たかし)

どのご家庭も毎日とてもあわただしい日々をお過ごしなのだと思います。ゆっくり好きなことをしたり、ぼーっと景色を眺めたり、じっくり本を読んだりするのは、なかなか難しいことが多いと思います。そんな中でも「大事なことで何だったかなあ」と時々考えることができればと思います。

ずいぶん前、こんな話を聞いたことがあります。

「私は大福餅が好きです。大福餅は少し置いておくとお餅が固くなるので、昔は火であぶったものです。するとお餅が柔らかくなって食べられるようになるのですが、お餅に破れ目ができて、そこから中の餡(あん)がじんわりと出てきてしまいます。それで慌てて食べます。お餅のいちばん薄い、弱いところから中の大事な餡が出てきます。大事なものは、厚い、強いところからではなく、弱いところから姿を現すということだと思います。」

子どもたちも同じかもしれません。わが子がかんばったときには、こんなことが続くようにと願います。かんばれなかったとき、弱虫だったときには、もっとかんばってほしいと願います。でも、弱虫のときにも、その子の大事なメッセージがにじみ出ているのではないのでしょうか。「こんなときにこそ、目を向けてやさしい声を掛けてほしい。」人がめげているときに、どんな言葉をかけたらいいいのか戸惑うことが多いのですが、言葉よりも表現力豊かな心に向けることはできるかも知れません。